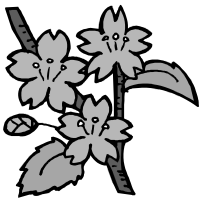


NPO☆Kyoken通信

春号

特定非営利活動法人教育研究所(問題行動事務局)102号 平成23年4月5日発行

本部　〒233-0013 横浜市港南区丸山台2-26-20
TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742
URL:http://kyoken.org/

宇奈月自立塾　〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉5509-16
TEL:0765-62-9681/ FAX:0765-62-1120
E-mail:contact@kyoken.org

長く厳しい冬が終わり、今年もようやく暖かな春がきました。
今年の冬は日本全国、例年に比べ厳しい冬となり、自立塾のある富山県宇奈月は、自立塾がはじまって以来の大雪が降り積もりました。あまりの降雪量のため、塾周辺は今年に積もった雪がまだまだ溶けておらず、積もったままです。桜が咲く頃には(宇奈月は4月末に桜が咲きます。)雪がすべて溶けて、冬から春の風景をバトンタッチしてくれたらと思っています。

3月中旬に東日本大震災が発生しました。
幸い、宇奈月自立塾のある富山県は少し揺れただけで大きな被害はなく、怪我をした塾生はいませんでした。関東から入塾してきた塾生数人は、テレビの前に常にいて情報をチェックし、混線してつながらない電話を何度もかけて、地元にいる家族の安否をとても心配していました。
そして、みんな、一人一人、自分なりに自分にできることは何だろうか？と考え、避難所で生活を送る人達へ救援物資を寄付した人、首都圏にて赤ちゃんが産まれた家族に、関東ではなかなか手に入らないミネラルウォーターを買って、赤ちゃんの粉ミルク用に贈った人、募金をした人等、被災地から離れている富山にいるからこそできることを、一人一人考え行動していました。日本が大混乱している時期だからこそ、人としての真価が求められ、(己のことだけを考えない。今一番大変な人達を思いやる心)それを自分なりの方法で、人の真価を考え行動した塾生達を見ると、ひきこもりの若者達だってちゃんと社会を見ている、だから、きっと社会復帰ができる！と改めて思いました。
最後に、東北関東大震災でお亡くなりなったご家族の方々、被災された多くの方々に心からお悔やみを申し上げます。

◇ 教研から海外へ！海外体験留学のご案内 ◆

教研がプロデュース！海外留学体験プランが5月からはじまります。
日本とは違った文化、気候、生活習慣の海外での生活体験を牟田武生先生や教研スタッフと一緒に体験してみませんか？
詳細は5、6ページの特集、「牟田先生と行く海外視察体験旅行」をご覧ください。

「してもらう」から「してあげる」の心理

NPO 法人教育研究所理事長　牟田武生

東日本大震災に遭われ、お亡くなりなった家族の方々、家等を失くされ被災された多くの方に心からお悔やみを申し上げます。

昨年夏の猛暑、そして、今冬の百年に一度と地元ではいわれる大雪で、宇奈月の若者自立寮は6階建の自社ビルに降り積もった大きな氷雪が落ち、小型トラック2台分くらい大きさのある外置きボイラーを直撃、2台とも破損した。

被害総額は500万円を超えた。さらに、3月11日、カナダ留学視察旅行で若者と一緒に成田空港に向かう高速道路で液状化が起った浦安で、東日本大震災に遭いバスは緊急停車、成田空港で足止めされた。（詳しく知りたい方はブログ 3 月 11 日をお読みください http://www.konayami.com/muta/bn2011_03.html）

3月末というのに桜の蕾はまだ固く、横浜では白蓮や沈丁花が満開で季節は例年の1月遅れ。地震、津波、放射線物質漏れで、EU を代表して来たフィンランドのソシオメディア（Sosiomedia）という社会・医療問題を中心に取材活動を行っているメディアの編集長（Mr. Teuvo Peltoniemi）の取材を始め、講演等がキャンセルされ、身体的には暇なのだが、精神的には、「2 度目の事業仕分けに遭った合宿型自立をどう継続させるのか」「私達にできる復興支援とは」等で政党や内閣府に働き掛けをする、気ぜわしい日々が続いている。

思い出せば、1994 年、阪神・淡路大震災前に、いじめから不登校になり自宅にひきこもった中学生の女生徒のカウンセリングをしていた。翌年、阪神・淡路大震災に遭い、家は全壊し、父親は亡くなり、母親も重傷を負ったが、その子は愛用していたアップライトピアノが寝ている彼女に倒れ掛かり、奇跡的に鍵盤が上手く隙間を作り、彼女を守り、その後、天井が落下したが、ピアノが守ってくれ助かった。

対人不安の強い子だったので心配になり、震災の 3 日後、彼女が住んでいる埃まみれの街を公共交通で行ける所まで行き、その後、徒歩で行った。彼女は避難所である、最も嫌っていた学校の体育館の角の隅に段ボールをへの字曲げ衝立を作り毛布に包まっていた。

「大変だね！」と声を掛け、チョコレートなどの菓子を差し入れると、「わざわざ、訪ねて来てくれたのですね。」と嬉しそう答えてくれた。

それ以後、時々、無料の公衆電話を使い電話を掛けてくれ、近況報告をしてくれた、時々で、困った物があると差し入れをした。そして、震災 1 週間後、明るい声で電話を掛けてくれ「今、先生、お年寄りの被災者にお水を配るボランティアしているの」と言う。

私は嬉しくて仕方がなかった。それから、1 ヶ月後、元気になった母親と仮設住宅に移り住んだが、「また、ひきこもってしまった。」と母親から聞いた。

私は再び彼女の住む街を尋ねた。そして、彼女は「仮設水道が引かれたら、私の仕事がなくなっ

てしまったの！」と答えた。

「そう、でも、お水を配っていた時、皆に何と言われたの？」
皆、優しく「ありがとうて、言ってくれたよ」
「そう皆の役に立ったんだね！役立つと嬉しくない」
「うれしいよ！」
僕がボランテイアのお姉さんに「お仕事くださいと頼んでも良いかい？」
「でも、私、自信がない」
「わかった、先生も一緒にやってあげるよ」と言い、嬉しそうにほほ笑んだ。
私はボランテイアの人に少し事情を話し、彼女と全国から送られてきた支援物資の仕分け作業をやった。彼女が「もうやり方わかったから先生は横浜に帰っていいよ。でも、また、関西に用事があったら来てくれる？」と言ってくれた。
30 歳になった彼女は会社員として頑張って働いている。

「今から考えれば、15 年前の不幸「阪神・淡路大震災」がなければ、今も変わっていない。父親を失った喪失感が大きかったが、これからは自分で何とか生きていかなければいけないと避難場所での生活で思えた。
「してもらう」から「してあげる」に意識が変わり、その行為が皆に感謝され、自分は生きていて良いのだと思えたことが大きかった。考えるだけでは何も変化しない、行動しなければ、対人不安は乗り越えることができないと思う」と語ってくれた。

ひきこもり、ニート、ネット依存の若者を連れて、被災地にボランテイアに行きたいと思う。でも、時代が変わった。

先日、ネットゲーム依存になった高校生の母親が電話を掛けてきた。
「先生、家の子、計画停電にアタマに来たのか、ネットゲームが停電するとやれない。ゲーム仲間は皆、やっている。不公平だ。東京 23 区の中心部は停電しないらしい。そこに引越すか、発電機買って来い。来なければ、半殺しにする。」と言うのですけれどどうしたら良いのですか。
父親が「ゲームなんかやってないで被災地に行ってボランティアでもしたらどうか」と、言ったら、立てつづけに、部屋と廊下の壁をケ破り、穴を開けた。
そして「俺は現実の社会で、地震や津波、放射能で何人死のうが俺には関係ない、どうでもいい。俺の生きている社会はネットの中だけにある」と言う。

ひきこもりやネット依存に対して、韓国、中国、ベトナムでは強硬手段としての強制施設への入院が行われ成果をあげている。人権意識の高い日本では人権を制限するためには、例え、統合失調症の人でも自殺の可能性が高いとか、他人を殺傷する恐れがあると、精神科指定医が判断しないと措置入院（強制）はできない。

しかし、私は、最近の認知症の患者と5年以上の長いひきこもりの暮らしをした青年の脳の断層写真を見る機会があった。いくつかの症例で非常に似通った画像があることに気がついた。このままでは生きた屍になってしまう。そうなっても、不安や緊張から逃れた本人は過って気侭で良いが、

家族は一生死ぬ思いをしなければならない。
　強制的に家を出したり、ネット依存を強引に止めさせることは一歩間違えば、親子の殺人事件に発展する危険があるので、慎重にことを進めなければならない。そこで、本人自身が自分の殻を破り「やってみよう」「してみたい」という気持ちにさせるにはどうしたら良いかを考えていた。
　そこで、考えあぐね、昨年から新たな実験を行っていた。ヒントは海外での仕事が多くなった私の旅だった。それをやってみると反応は良い。

「自分の価値感を変えるために、新たなスタートラインとして」
　内こもり悶々として認知症に似た症状を呈する青年や開き直りこもる「ひらきこもり」(V6 の通称「いのっち」命名、彼との話の中で番組企画として出た)、若者を多数見てきた。彼らを病人にして、精神障害者手帳や生活保護で支えるよりも、人間ひとり一人が持っている力を発揮して、本来持っている自尊感情に従い「働きながら、社会で生きる」方が、その人の人生にとって素晴らしいものになるだろうと思う。

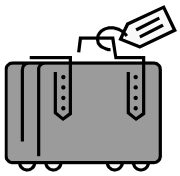
企画旅行【仮想現実や脳内社会より現実社会はおもしろいぞ！】

　HP に掲載⇒説明会⇒自分達のアイデアを出し旅作り、仲間作り⇒海外旅行⇒思い出作りの制作⇒次なる目標の設定という流れの中で、個々人、能力や目標に応じ、次のステップに進み、社会的自立を果たす。
また、教育研究所の卒業生で長期間海外留学をし、現地に詳しく語学堪能の卒業生も仕事の合間をぬってお手伝いしてくれる予定だ。卒業生で旅行会社を経営している社長も手伝ってくれる。

◇ 基金訓練講師 募集中！◆

宇奈月自立塾で実施している基金訓練の講師を募集しています。
合宿型若者自立プログラム科は 3 月 29 日開始のものと6月中旬開始予定のもので終了します。
基金訓練は「合宿型若者自立プログラム科」は廃止になりますが、寮付基金訓練の形で、続けていきたいと思っています。
そこで、基金訓練を続けるにあたって講師の方を募集しています。
募集
定年退職をされた方で 1 日 3 時間、週 4 日ほど働ける方。
講師料；　　時給 1,000 円～
仕事内容；　ビジネスマナー等
退職して余った時間をニート・ひきこもりの若者の社会復帰を手助けすることに活用しませんか？
一緒に未来ある若者を支援しましょう！
お問い合わせは宇奈月自立塾（℡ 0765-62-9681)または横浜事務所(045-848-3761)まで。

牟田武生先生と行く海外視察体験旅行



牟田先生は海外との交流、会議の仕事が最近増えています。1つの街に3日から1週間位滞在し、その国の文化や交流を深めていきます。旅行社には航空券やホテルを世話してもらいますが、パック旅行ではありませんから、旅行する人の目的に応じて様々な対応が可能です。
（但し、最低催行人数あり、牟田先生以外にもスタッフが必ず参加します）

◇旅行目的◆

・共通目的の旅を通して自由な会話の中で人間関係を深めて行く
・不登校、ひきこもり、ニート状態の無気力からの脱皮を目ざす
・現地の人との交流の中から異文化刺激を受け、自分なりの人生感を見直す
・留学を考えている人のための語学学校、高校、大学の視察や見学、ホームステイ先の見学等
・国際感覚育成と実践的な語学（会話）勉強のやり方を学ぶ
・最終的には希望すれば、留学からNGO職員への道をめざすことができる。

◇参加資格◆

・NPOの会員とその家族、有効なパスポート所持者、身の回りのことは自分自身できる人。
・時間を守れる人。
・女子の場合は親子とか、友人同士のペアが理想だが、ひとりでも参加できる。
しかし、スタッフが女子でない場合は、ホテルがシングルになるので費用が多少高くなる。
男子でもシングルを希望者は同じ。

◇ 5月からの計画予定 ◆

◎5 月中旬　カナダ、バンクーバー◎

教育立国カナダに行く。5泊 6 日　費用 30 万円から 35 万円（保険代は別）燃料サーチャージ料（3 万 6 千円込）
留学する場合、アメリカより安全でしかも安く、キングス・イングリシュが話せるようになる。州立大学への留学可能、高校に短期留学プランなどの下見ができる。
現地法人、ウエストコーストインターナショナルとの協力留学視察、市内観光、ビクトリアの旅（追加料金 1.5 万円）
※　希望者はすぐに連絡してください

◎ 6 月中旬　タイ、バンコク ◎

自由の国、微笑みの国、タイ国、バンコク 3 泊 4 日　費用 6 万円から 8 万円(サーチャージ料と保険代は別料金)
ひきこもりの長い人でタイに暮し始めた人は、以前、読売新聞で「外こもりする若者」という記事で大きく紹介された。「マイペンライ」＝気にしない、この精神はひきこもりの人にとって楽に暮せるようだ。
バンコクにある現地法人タイランゲージスクールの協力(語学学校に体験入学も可能、さらに、チュラルンコン大学やチエンマイ大学等の国立大学に留学することも可能です。タイ語やアジア経済を学び専門家に努力すればなれます。勿論、タイ語、英語、中国語が話せるようになれば就労もできる。
語学学校体験入学、市内見学、アユタヤ観光等など、様々な要望に答えられる。
※4 月 23 日(土) 横浜事務所 「タイ旅行」説明会　午前 10 時半から

◎ 7 月初旬　韓国、ソウル ◎

ネットゲームの大国韓国、ひきこもりやネットゲーム対策に本格的に取組成果をあげている韓国に行きます。2 泊 3 日、費用 5 万円から 7 万円(サーチャージ料込、保険代は別)市内見学、ロッテワールド見学等が含まれる。
協力はソウル、東南病院です。
※5 月 21 日(土) 横浜事務所 「韓国旅行」説明会　午前 10 時半から

旅行説明会は原則 2 カ月前に行います。申込は最終 1 カ月前。
旅行の事務手続きは教育研究所で行う。
料金には全食事、体験学習料や入場料(見学料金)が含まれる。
料金の高い設定はシングル希望者。
パスポート取得に 2 週間程度かかる。
詳しくは横浜事務所に問い合わせするか、メールでご連絡ください。

◇ 今後の企画予定(今秋から) ◆

イタリア、ルネッサンス発祥の地「フレンツエ美術鑑賞と職人文化を尋ねる旅」
ニューヨーク、「世界の仕事場と音楽院を尋ねる一週間の旅」
アジア、「汗と充実感のボランテイア活動の 2 週間の旅」
タイ、「様々な地方を訪ね、アジア的生活を満喫、ちょっと暮らしたくなる旅」
中国、「中国的ものの考え方を理解する旅」
カナダ、バンクーバー、「二ヶ月間、自然体験と短期語学留学」
ハワイ、静かな知的環境カイルワ「二ヶ月間、マリンスポーツを楽しみながら語学留学」
フランス、「パリの暮らしとプロバンスの地方を尋ねる旅」
など等、様々なゾクゾクする企画が登場します。

牟田武生の個人的な国際的な繋がりを利用し、国際感覚と明日を生きる国際社会の見方、感じ方を体験していく。

世の中の困った人が僕達私達を呼んでいる！
いざ！人助け！手を取り合い助け合おう！
そんな僕達私達は・・

お仕事し隊！

宇奈月自立塾では「お仕事し隊！」の仕事を随時依頼しています。

「お仕事し隊！」とは？

ニート・ひきこもりの若者で結成した「街のお手伝い隊」です。
足腰が不自由なお年寄りの食料品・日用品の買い物代行、一人暮らしのお年寄りの家事代行（掃除、料理、庭の管理等できることならなんでもします！）、両親が共働きで家に一人きりの子どもたちの子守り、勉強が苦手な小学生・中学生等の学生の家庭教師、忙しくて家の掃除ができない人のためのハウスキーパー、引越しのお手伝い（個人家、会社等）、チラシ配り・・etc,etc、できることならなんでもお手伝いいたします！！

・・・

ひきこもっているけれど、仕事をしたい人、困っている人を助けたい人、ひきこもってはいないけれど、なかなか仕事が見つからない人、ご興味のある方はお気軽に宇奈月自立塾（℡ 0765-62-9681 e-mail contact@kyoken.org）までお問い合わせください。ご本人だけでなく、保護者の方のお問い合わせ、ご相談もお持ちしております。

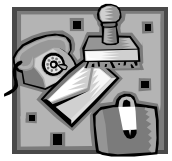
宇奈月自立塾の私たちが何でもお手伝いします！

「お仕事し隊！」結成秘話

宇奈月自立塾がはじまって6年がたちました。その間、たくさんのニート・ひきこもりだった若者が卒業して、社会で働いています。ですが、理由あって、なかなか仕事に就けない若者がいるのも事実です。さらに時代は大不況、ハローワークへ行っても、求人広告がとても少なく、社会的スキルが弱く、様々な事に経験不足なニート・ひきこもりの若者達にとって、ますます、就職しにくい時代です。

彼ら彼女らは確かに何年もひきこもって何もしない時期がありました。しかし、もう一度、社会で翼を広げてはばたきたいと思っている人達がたくさんいるのも事実です。
仕事が見つからない、何をしていいのかわからない、働きたいけれど働けない、そんなニート・ひきこもりの若者のためにも、ひきこもり支援団体を実施している私達が若者達の働く場を開拓する必要性を感じ、「お仕事し隊！」をはじめようと思いました。

また、お仕事し隊の仕事依頼者はひきこもりの若者に仕事を与え、お仕事し隊のひきこもりの若者は仕事依頼者から頼まれた仕事をこなす。そうすると、仕事依頼者は助かり、ニート・ひきこもりの若者は働く素晴らしさを感じることができ、社会で生きて行くのには助け合いの精神がとても大事であるといくことが身を持って実感できます。



お仕事し隊の「仕事依頼」にご協力をお願いします。

お仕事し隊を結成したものの、「仕事」がなければ、若者達は働くことができません。
どんな小さなことでもかまいません。どんな仕事でもかまいません。彼らに仕事を依頼して下さる方、彼らの活動を応援して下さる方を募集しています。

お仕事し隊の隊員には様々な若者がいます。発達障害を持っている人、知的障害を持っている人、大学を卒業したものの人生に迷っている人、何年間か社会人を経験したが挫折した人、それぞれ個性的な若者達が自分の持っている力をフルに発揮して、みなさんを手助けしたいと思っています。
しかし、そう心に思っていても、「仕事」がないと彼らも力を発揮できません。
現在、お仕事し隊は具体的にフルには活動していませんが、昨年、首都圏在住で黒部市に生家のある方の生家の蔵の荷物整理、冬には生家の庭の雪かきをお手伝いさせていただきました。
アルバイト料もきちんとでて、ひきこもりの若者たちは自分達の力でお金を稼ぐことができ、働く素晴らしさを身も持って実感しました。

富山県にお住まいの方で彼らに「仕事」を依頼して下さる方を募集しています。アルバイト料はささやかなものでかまいません。彼らに「仕事」を依頼して下さる方、
宇奈月自立塾（℡ 0765-62-9681 e-mail contact@kyoken.org）までご連絡ください。
皆様からのご連絡お待ちしております！！

冬彦の挑戦。ひきこもりから卒業するぞ！

体験入塾編 ①　　連載第三回目

人間関係のつまずきと趣味のゲームに熱中し、高校を中退後、オンラインゲーム三昧のひきこもり生活を 10 年近くおくる冬彦。前回、宇奈月自立塾への体験入塾へ行く決断をするが、出発前日に行きたくない！と駄々をこねはじめてお母さんを困らせはじめた。しかし、冬彦にとって恐ろしく厳しい存在であるお父さんの叱咤激励で冬彦は高速バスに乗って、横浜から富山宇奈月へと向かった。住みなれた横浜の自宅から数年ぶりに離れた冬彦。豊かな大自然に囲まれた富山宇奈月で彼に何が待っているのか‥。

登場人物

冬彦（28歳）
前回、宇奈月自立塾への体験入塾出発前日に行きたくないと駄々をこねてお母さんを困らせたが、お父さんの説得により、宇奈月自立塾に向かった。

大岩 さん（38 歳）
宇奈月自立塾スタッフ
自宅は横浜だが、宇奈月自立塾に単身赴任で宿直で働いている。月 1 回、横浜の自宅に帰って、妻と息子と休日を過ごしている。

佐野君（21 歳）
いじめで東京の高校を中退後、数年ひきこもるが、若者自立塾時代に自立塾に入塾して、社会復帰。
今では過去の苦しいひきこもりの経験を他人に笑って話せるほど元気になり、現在、ビジネスホテルのフロントのアルバイトをしている。夢はお金を貯めて、海外へ留学すること。

冬彦、宇奈月自立塾に到着。

（夜の 7 時過ぎ、冬彦が乗る黒部行の高速バスが黒部に到着。到着後、スタッフが車で迎えにきて、その車に乗って塾へと向かい、やっと塾に到着する。）

「冬彦君、塾についたよ。塾で生活する部屋へ案内するから荷物を持ってついてきてね。」

「‥はい。」
（下を向いて、目を合わせず返事だけする。その後、下駄箱に靴を入れて、恐る恐る塾に入る。）

「今日から冬彦君が使う部屋は 5 階にあるんだ。そこのエレベーターに乗って一緒に行こう。部屋に

荷物を置いたら、もう 7 時過ぎだし、荷物の整理の前に一緒に夕食を食堂で食べよう。今日の夕食は手作りの煮込みハンバーグだ。じっくり煮込んで、塾のみんなで一つ一つ丁寧に作業して作ったから美味しいぞ～」

「はあ・・。」
（冬彦を一週間宿泊する部屋へと宇奈月塾スタッフの大岩さんが案内する。荷物を置いた後、一緒に食堂へと向かい、用意されていた夕食を配膳し、大岩さんと向かい合わせの席で夕食を食べ始める冬彦。）

「塾の夕食はだいたい 6 時頃にみんなで一緒に食べているんだ。だけど、その時間帯に就労体験が重なった人、OBの人で働きにでかけて夕食の時間までに帰ってこられない人達なんかは一緒に食事をとれないから、今回の僕達のように、後からでも食べられるように別に食事をとってあるんだ。」

「・・・・。」
（大岩さんと目を合わさずに相槌も打たない冬彦。そして、用意された夕食にほとんど箸をつけない冬彦）

「食が進まないみたいだね。長時間バスに乗って疲れたのかな？大丈夫？」

「・・・・・・・。お腹がいっぱいなんです・・。」
（ボソボソと目を合わさず、聞き取るのが大変なくらい小さな声で。）

「もしかして、夕食がでないと思って、お弁当とか買ってバスの中で食べたのかな？」

「・・・・・・いえ。お菓子を・・。」

「お菓子を食べすぎちゃったんだね。お菓子は美味しいけれど、食べ過ぎは良くないね。
いつもお菓子をたくさん食べすぎちゃうのかな？」

「・・・・・・。」
（怒られると思い、下を向いて黙りこむ冬彦。）

「お菓子を食べすぎている冬彦君を責めているのではないよ。ただ、冬彦君の体に栄養がきちんときわたっているのか心配なだけなんだ。大丈夫！僕も甘い物は大好きさ！
ところで、家ではご飯はちゃんと食べていたのかな？」

「・・・・・お菓子でお腹がいっぱいだからあんまり食べたくないんだけど、母親が食べろ食べろとうるさくて、いつも部屋の前におかれた食事を少しは食べていました。だけど、お菓子を食べてなくても元々あまり食べたくないんです。・・・・・全然動いてなくて腹が減らないから・・・。」
（怒られないとわかり、小さな声でボソボソとゆっくりと大岩さんに話し始める冬彦。）

「そうか・・。一週間の体験入塾で体を無理しない程度に少しづつ動かして、食欲が自然にでてきて、

朝・昼・夕、三食きちんとお腹がすいた状態で食べられるようになるといいね。」

「‥はぁ‥。」
（下を向いてボゾボソと返事をする冬彦。しばらくして、大岩さんが食べ終わって、一緒に食器を片付けに洗い場へと向かう。）

「塾では食事を食べ終わった後、食べたものを自分達で洗って片付けているんだ。
今日は僕が、冬彦君と僕の 2 人分の食器を洗うから、冬彦君はフキンで僕が洗った食器をふいてくれるかな。」

「・・・・・それって・・・どうすればいいんですか？」
（挙動不審に目をキョロキョロさせながら、大岩さんに質問をする冬彦。）

「不安にならなくても大丈夫だよ。フキンでお皿の水気を拭くだけだよ。家でお母さんが食器を洗う時、フキンでお皿を拭いている姿を見たことないかい？」

「・・・・・そもそも、食器って機械で洗うものじゃないんですか？食器洗浄機が全部やるんで、母親が食器を拭いている姿は見たことありません。」

「そうか‥。塾には食器洗浄機がないから、洗いものを一つ一つ、洗剤とスポンジで洗うんだ。大変な様に感じるけれど、たくさんの人数で流れ作業で食器の後片付けをするから、意外に手早く終わるんだ。フキンの使い方は普通に洗った食器の水気をきるようにふけばいいだけだから、大丈夫だよ。」

「はあ‥。」
（そう言って、ぎこちない手つきで 2 人分の洗い終わった食器をフキンでふく冬彦）

「じゃあ、今日はこれで終了です！部屋でゆっくり休んでください。
館内の詳しい案内は今日は疲れたと思うから明日詳しく説明をします。

あと、お風呂は 6 階にあるよ。ここの塾は元々、塾になる前はホテルだったんだ。ホテルの大きくて綺麗な大浴場に宇奈月温泉が 24 時間贅沢に流れているんだよ。じっくりと足をのばして浸かると気分は最高で疲れも癒されるよ。消灯の 10 時半までだったら、朝でも昼でも夜でも好きな時間に入れるから、一週間温泉をぜひ楽しんでください。あと、何か今、聞きたいことはあるかな？」

「・・・。特にありません‥。」
（そう言って、猫背気味の姿勢で歩いて用意された部屋へと戻る冬彦。そして、部屋に入ったとたん、部屋の畳の上でごろりと寝ころぶ。）

「・・・・疲れた。風呂がどうのこうのと言っていたけれど、もう疲れて入る気がしねえ‥。
けど、風呂が温泉っていうのが少し気になるな‥。入る入らないは別にしてどんなものか覗きにいってみるか‥。」（そう言って、だるそうに起き上がり、大浴場へと向かう冬彦。）

「‥ここが風呂か。こっちが男子風呂であっちが女子風呂だな。」

（冬彦が大浴場を少し覗くと、一人、風呂からあがって着替え中の塾生が冬彦に話しかけてくる。）

「こんばんは。」

「（しどろもどろして挨拶を返す）・・・あっ！はぁ…ども…。」

「今日から入塾された方ですか？僕、佐野って言います。よろしくお願いします。お名前を聞いてもいいですか？」

「（小さな声でボソボソと）・・桂　冬彦です。」

「今から風呂ですか？」

「・・いや、浴場がどんな感じか見に…」
（下を向いて目を合わせず、小さなボソボソとした声で、やっとの思いで佐野君に返事をする冬彦。）

「そうですか。大きな大浴場の温泉につかるのって最高に気持ちがいいですよ！」

「はあ・・。」

「それでは、僕はこれから仕事があるのでお先に失礼します。」
（手早く着替えを終えた佐野君が浴場からでていく。その後、冬彦はちらりと脱衣所から浴場を覗く）

「へえ・・。子どもの頃、親父と一緒によくいった銭湯みてえだな・・。よし、今は誰もいねえ。・・・他人と入るのは抵抗があるから、今のうちに風呂に入るか。あっ・・！よく考えたら俺の入浴道具、みんな宅急便の荷物の中じゃねえか！あのクソババァ！今日、俺が風呂入るのなんて考えてねえんだな！あいつはいつもあわてて先周りばかりして俺をイライラさせやがる！！」
（イライラしながら男子風呂の脱衣場から冬彦が出ようとする。）

「あれ、冬彦君じゃないか！」

「・・・・！・・・・今から風呂ですか？」（目をキョロキョロさせながら挙動不審に。）

「ああ。冬彦君も風呂かい？」

「いや、ちょっと見に・・・。それに・・・俺、入浴道具、全部宅急便に詰めたからどっちにしろ明日の荷物が届くまで風呂に入れない・・・。」
「ちっ！あのババァ！」（小さな声で独り言）

「シャンプーと石鹸だったら、共同用のがあるから大丈夫だよ。後、タオルは来客用のものがあるから貸してあげるよ。ちょっと待っていてね。」
（そう言って、大岩さんがタオルを取りにいく。）

「このタオルを使っていいから。」

「はあ‥。」
（他人と一緒に風呂に入るのに抵抗がある冬彦だったが、何となく大岩さんと一緒に服をぬぎ、大浴場へ向かう。そして、かけ湯をし、大きな浴槽に体を浸かる冬彦。）

「疲れただろう？ところで誰かに話しかけられたりした？」

「さっき‥佐野さんっていう人に。」

「何か話をした？」

「何か仕事があるって急いで出て行ったので、挨拶ぐらいしか‥‥。」

「ああ、今日は夜勤の日か。佐野君はね、ビジネスホテルのフロントのアルバイトをしているんだ。朝から出勤だったり、夜から出勤だったり出勤時間がバラバラなんだ。」

「‥へえ‥。だいぶ若く見えたけど‥‥」

「確か今年 21 歳だったかな。彼はいじめで東京の高校を中退後、数年ひきこもり生活が続いたんだけど、今ではすっかり元気になって、今の職場でも同じぐらいの年頃の友達ができて、よく遊びにいったりしていて、心身ともすっかり元気になったんだ。」

「‥そんな個人情報を…」

「佐野君は自分で周りに自分の過去を話しているから大丈夫だよ。彼の場合、もう、社会で生きていく自信がついて、過去の辛い事が自分の中で消化されたんだ。」

「へえ‥。」

「将来的には外国に留学したいみたいで、今、働いて留学するための資金を貯めているんだ。昔、タイに旅行へ行ったんだけど、その時の感動が忘れられなくて、タイとかどこか海外へ留学したいと思ったみたい。」

「留学か‥。」
自分と同じく、高校を中退後、ひきこもり生活を送っていたが、今ではすっかり元気になり、夢に向かって日々を頑張って生きている佐野君の話を聞き、何かを考える冬彦。1 週間の体験入塾はまだはじまったばかり。これから冬彦に何が待っているのか。 次回、体験入塾②へとつづく。

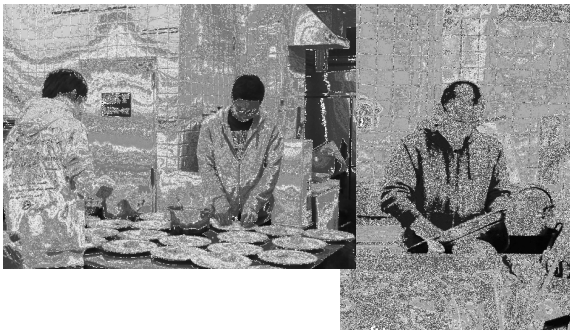
うなづき ☆フォトギャラリー

調理実習の時間にドーナツを作りました。
作った後はみんなで試食♪ 揚げたてはうまい♪

塾の隣にある、ゴルフ工場にてゴルフの就労体験の様子。カッコイイゴルフクラブが作れるようになりたいなあ～

宇奈月温泉街にある派出所前にて。
立山君に敬礼！

宇奈月麦酒館にある、地ビール工場での製造の就労体験の様子。ビールの箱詰めをしています。



夕食の準備の様子。
今日の夕食は白身魚のムニエルです♪
今からもうすでにお腹が鳴っています。笑。

塾生の作文

6カ月を振り返って（合宿型若者自立プログラム科・卒業生の卒業前の作文）

私は、入塾したばかりの頃は、食欲がほとんどなく、体重もアメリカ難民なみに痩せていて、頬もこけていました。だから、その頃の私は「体、大丈夫？」と心配されるような子だったと思います。

しかし、入塾してからは食欲もでてきて、ガリガリに痩せていた体重が少しずつ普通に戻ってきました。体力、筋肉も全くなかったのですが、散歩、ストレッチ等の運動をしたおかげで今では、体力、筋肉が入塾前に比べてついてきたと思います。

日常生活においても、洗濯機の使い方とかが全く分からなかった私が、今では自分で洗濯ができるようになりました。

入塾したばかりの頃は人見知りがすごくひどくて、誰に話しかけられても頷くだけで精一杯だった私でしたが、今では自分が思ったことを口に出せるようになり、段々と素の自分が出せるようになりました。内弁慶だった私がこんなに変わるものなのか？と思うくらい、自分でも驚いています。
人見知りがなおって、誰とでも普通に話せるようになったのは、すごく嬉しい事ですし、自分が少しは成長したのかなあって思います。

あと少しで私は卒塾なのですが、最近、卒塾後の進路の事を考えています、私としては一人暮らしをしたいのですが、親が黒部で就職するのなら仕方がないけれど、地元で就職するなら家から通いなさいと言っています。また、親はもし、就労体験先の方が可能ならば就労体験先で雇ってもらえたらいいねと言っています。私は最初、就労体験先で働くのは申し訳ないと思っていたのですが、もし体験先で働くことが可能ならば、それも一つの選択だと思いました。

卒塾後の進路は不安だけど、色々と就労体験を経験して、入塾する前よりは自信もついてきたから、卒塾してからも色々と頑張っていこうと思います。

合宿型若者自立プログラム科最新情報

3月中、8月30日開始の合宿型若者自立プログラム科の塾生2名が卒業しました。卒業した訓練生2名は次のステップに向かって、前向きに人生を歩きだしています。

そして、入れ替わるように、合宿型若者自立プログラム科3月生の訓練が3月29日から開始しました。訓練生3名は入塾したばかりの頃は緊張した表情で合宿生活を送っていましたが、今では少しずつ生活に慣れてきて、笑顔でいることが多くなりました。

現在、6月 28 日開始の合宿型若者自立プログラム科を申請中です。申請中のため、まだ認可はおりていませんが、認可が正式に下りましたら、事実上、最後の合宿型若者自立プログラム科となります。（合宿型若者自立プログラム科は正式に廃止が決定いたしました。）
予定では4月頃から募集を開始しようと考えています。ご興味のある方はお気軽に宇奈月自立塾（TEL 0765-62-9681）までご連絡ください。また、正式に認可が下り次第、教研HPに詳細をアップしたいと思っています。

黒部のおいし～いお米をいかがですか？

3月中旬、東北、関東にて東日本大震災が起こりました。
津波による被害、原発による放射能の被害の恐れがあり、日本中が今もなお、大混乱しています。
富山県は幸い、少し揺れた程度でほとんど被害がありませんでした。

そんな地震の被害も少なく、自然の豊かな富山県黒部市の美味しいコシヒカリを宇奈月自立塾では震災前と同じく、変わらず販売を行っています。震災があった後でも黒部の美味しい水と空気で育った米美味は変わりません！炊きたてをお口に入れてほおばると思わず、「ニコッ！」とする美味しさです。

東日本では震災による混乱で「買いだめ」をする人々が続出、食料品が手に入りにくい状態です。
ご自宅用に。親戚や近所の方への贈る用に。被災地に救援物資を届けるために。
黒部の美味しいお米はいかがでしょうか？購入制限はなく、お好きなだけ購入できます。

ご注文はFax、電話、メールにて受け付けています。ご希望の方はいずれかの注文方法で宇奈月自立塾までご連絡ください。

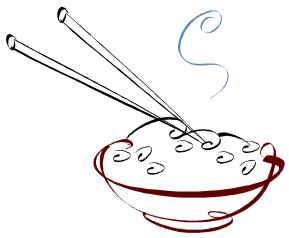
ご注文お待ちしています♪

黒部市でとれる「黒部米」コシヒカリは特許庁の「地域団体商標」いわゆる地域ブランドに「米」として全国ではじめて認定されたお米です。

注文票

5㌔　　2500円　　×

ご自宅までの送料…（全国一律）　　1000円（30㌔までこの代金です）
お歳暮、お中元、贈り物にも最適です。



こちらをご記入下さい（必須）

〒　　－
送付先住所　　電話番号

氏名　　メールアドレス
こちらを　0765-62-1120　まで FAX をお願い致します。
なお TEL 番は 0765-62-9681 です。メールでのご注文は　m_muta@kyoken.org です
FAX 送信後ご入金を
　北陸銀行　宇奈月支店　普通　口座番号　5014010　特定非営利活動法人教育研究所
迄お願いいたします。入金確認後３～４日で届けさせて頂きます。

高卒認定試験合宿のお知らせ

NPO法人教育研究所では、宇奈月自立塾で年二回高卒認定試験対策として「高卒認定合宿」を行なっています。この合宿は夏に行われる第一回認定試験、秋に行われる第二回認定試験のそれぞれ一ヶ月前から行っていきます。

宇奈月自立塾で試験勉強のみでなく、自立塾生との交流、規則正しい生活などを経験することによって、試験の合格のみを目標としないで「合格その後」を見据えた合宿でもあります。

今年度の試験概要は詳しい内容は未定ですが、例年 4 月末から 5 月中旬が願書の受付、8 月初旬が第一回認定試験という日程になっています。

教育研究所では「高卒認定試験」の受験科目の決定、願書の書き方などわからない箇所等を個別に相談を受け付けています。また勉強方法など、どう取り組んでいけばよいのか心配な方も相談を受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

また夏の「高卒認定試験合宿」の詳しい内容、日程などは 5 月中旬以降、通信またはホームページにてお知らせする予定です。

NPO法人教育研究所 講演会予定

富山

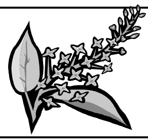
日程	会場	時間
4 月 10 日(日)	富山県民会館 707 号室	13:30～17:00 ◆13:00 から受付開始
5 月 29 日(日)	富山県民会館 508 号室	13:30～17:00 ◆13:00 から受付開始
6 月 19 日(日)	富山県民会館 608 号室	13:30～17:00 ◆13:00 から受付開始

横浜

日程	会場	時間
4 月 23 日(土)	ウイリング横浜 11 階多目的室	13:30～17:00 ◆13:00 から受付開始
5 月 21 日(土)	ウイリング横浜 11 階多目的室	13:30～17:00 ◆13:00 から受付開始
6 月 11 日(土)	ウイリング横浜6階会議室Ⅰ	13:30～17:00 ◆13:00 から受付開始

- 講演会へのご参加は先着順となっています。
- 講演内容は講演日近日に教研 HP(http://www.kyoken.org/)にアップします。
- 教研会員の方の参加費は無料です。
  (非会員の方は資料代として参加費が 500 円かかります。)

グループカウンセリングのお知らせ



宇奈月、横浜でそれぞれグループカウンセリングを実施します。
グループカウンセリングは7名前後の参加者とカウンセラーが行なう小集団のカウンセリングです。
宇奈月、横浜とも牟田先生のグループカウンセリングです。
日程、参加申し込みは下記の通りです。

◎ 日程

・ 富山宇奈月（AHE ビル・3 階研修室）

1 回目	4 月 10 日（日）	9:00～11:00
2 回目	5 月 29 日（日）	9:00～11:00
3 回目	6 月 19 日（日）	9:00～11:00

・ 横浜（丸山台事務所）

1 回目	4 月 22 日（金）	13:00～15:00
2 回目	5 月 20 日（金）	13:00～15:00
3 回目	6 月 10 日（金）	13:00～15:00

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

―グループカウンセリング申込書―　　　参加希望の方はFaxまたはメールでお申込み下さい

参加者氏名	
住所	〒
TEL	
Email	

グループカウンセリング費用　￥9,000（￥3,000×3回）　会員の方は特典があります。

申込先　　　E-mail contact@kyoken.org　　FAX　045-848-374

NPO法人教育研究所の会員の申し込みについてのご連絡

従来、会員の皆様には会費を年会費として一律5,000円お支払いただいておりましたが、平成21年1月から、1口5,000円としてお申し込みをいただいています。

会員の特典も新しく追加しておりますのでご検討いただければ幸いです。

○ 会員の有効期間はお支払いただいた時から、1年間の有効期間となります。

○ 年会費

※ 1口￥5,000 （1口増えるごとに￥5,000加算されます）

※ 銀行ご利用の場合は下記の口座にお支払いください。その場合は、必ずご自身のお名前を入れてください。よろしくお願い致します。

新しく会員の申込をされる方は、下記の申込書でご連絡ください。

会費納入口座は　北陸銀行　宇奈月支店
（ホクリクギンコウ　ウナヅキシテン）
名義　特定非営利活動法人教育研究所
（普）　5014010
郵便振替　00230-9-112182

特定非営利活動法人教育研究所会員の方には、

○カウンセリング料の割引　1万5千円→1万円

○年5回程度の定期通信の発行

○講演会などのイベントのお知らせ

○お母さんたちのミニ図書館の利用

・新特典

○グループカウンセリングの割引（1口につき1回無料）

※グループカウンセリングは年3回、横浜・宇奈月で実施します。

○教育研究所温泉宿泊施設（AEHビル）をご家族で利用できます。（会員割引があります）

・・

新規入会申込書（新しく会員になる方は郵送かFAXまたはメールでご連絡ください）

（郵便振替でお申込みいただく方は必要有りません）

入会者氏名	
住所	〒

郵送先　〒233-0013　横浜市港南区丸山台 2-26-20

Fax 045-848-3742　　e-mail　contact@kyoken.org

お母さんたちの交流会のお知らせ

「毎月 5～6 人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなと思っています。」
（卒業生の母より）

・同時に親の会ミニ図書館を開催。
・会員の方ならどなたでも利用可。
・不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が 300 冊以上あります。
　ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。

毎月第4土曜日午後 1 時から 4 時頃まで
NPO教育研究所横浜事務所にて。
参加希望者は教育研究所までお願いします。

教研☆伝言板

継続して寄付を求めています。

専用寄付口座
横浜銀行 上永谷支店
店番号 323 口座番号 1442822
名義人 特定非営利活動法人
教育研究所 （寄付）理事長 牟田 武生

ボランティア募集中

教科指導の補助出来る方（英語・数学・国語）
カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方
高卒認程度の教科指導できる方。
技術をお持ちの方で、定年退職をされ、
その技術を若者に伝え、若者の自立支援に
役立ちたい方

編集後記

４月になりました。気温が上がり、もう雪は降らなくなりました。（宇奈月は3月末まで雪がチラチラと降っていました。）
今年は雪害がひどく、雪が降ってこない春を迎えて、ようやくホッとした心境です。

東日本大震災の影響で東日本が混乱している中、富山県は被害がほとんどなく、宇奈月自立塾の塾生達は平和な日々を過ごしています。平和な土地にいるからこそ、今、被災地で暮らしている方々に何か宇奈月自立塾全体でできることはないだろうか？と思っています。

一人一人ができることをやっていく。それが小さなことでも積み重ねれば大きくなっていく。「One for all　All for one（一人はみんなのために。みんなは一人のために）」の精神を考える日々です。